

フタコブルリハナカミキリ *Japanocorus coeruleiopennis* (Bates)

【選定理由】

県内では珍しく、現在までに数例の生息情報しかない。県内での生息環境の状況については、詳細は不明であるが、生息基盤が脆弱であることが推測される。

【形態】

体長 18~24mm で、ハナカミキリ亜科としては最も大型の部類にはいる。前胸背は黒色の中央部を除いて黄色、上翅は美しい瑠璃色。



豊田市, 2008年6月14日, 山崎隆弘 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では、1982年に設楽町駒ヶ原(河路, 1984)で採集された記録が知られるのみであったが、「レッドデータブックあいち県民参加調査」によって、豊田市(旧稲武町)の面ノ木園地から2006年と、豊田市(旧下山村)から2008年に新たに確認された。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

サハリンから知られる。

【生息地の環境／生態的特性】

低山地から山地にかけて生息する。神奈川県などでは低山地での生息地が知られるが、東海地方ではブナ帯に見られる。成虫は6~8月に出現し、ノバラ、リョウブ、クリ、ノリウツギ等の花に集まる。低木やササなどの割れ目に産卵し、ふ化した幼虫は地上に落下する。恐らくその後地中に潜り、低木や草本の根を食べているものと考えられている。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内では数例の記録があるのみで、生息密度は低く、生息基盤は脆弱であると考えられる。減少の要因としては、元々生息密度が低い地域であったのに加え、自然林が減少したことによると推測される。

【保全上の留意点】

現在確認されている地域を中心に県内に残存する自然林を保全するとともに、詳細な調査の継続によって、県内の分布と生息密度、絶滅の危険性の程度を明らかにする必要がある。

【特記事項】

本種の色彩は、アオジョウカイに擬態していると考えられており、地方ごとに色変わりするアオジョウカイの色彩変異にともなう変化が知られる。全国的には現在絶滅を危惧する状態にはないが、地域個体群として学術的に興味深い存在である。

【引用文献】

河路掛吾, 1984. 1982年駒ヶ原高原で採集したカミキリムシ. 三河の昆虫, 31: 155-158.

【関連文献】

湯沢宣久・蟹江 昇・河路掛吾・竹内克豊, 1990. 愛知県のカミキリムシ科. 愛知県の昆虫, (上): 389-433. 愛知県.
(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)

県内分布図

